

# 町家合宿 in 京都 vol.9

## ～夜景と写真～

山下桂永子

### ☆町家合宿でよくある風景

夜のお散歩コースの定番は京都駅の空中経路。この空中経路は駅ビルを挟んで、百貨店の高層階とホテルの屋上広場を結んでいる。鉄骨が複雑に美しく組み合わせあって、回廊のようになっているところをすすむと、京都市内の夜景が臨める。高所恐怖症の方にはおすすりできないが、薄暗くも不思議な空間である。何より無料。そこでいつも古着交換 (Vol.4、Vol.5 参照) 姿の写真撮影を行う。

いつもカメラマンをしてきているスタッフが、自前の一眼レフカメラを手に、慣れた様子で、一人ひとり夜景をバックに参加者の姿を写真におさめていく。ポーズを決める子もいれば恥ずかしそうにしている子もいる。参加者もスタッフも自分以外の誰かにコーディネートされた古着を着ているので、場合によってはものすごく恥ずかしいときもある。最近京都の観光地でよく見受けられるようになった、コスプレイヤーの撮影会のようなのである。

「Aちゃん、次写真とらせてー」と誘うとAちゃんは首を振り、少し苦笑いを浮かべながら、スタッフの陰に隠れてしまう。Aちゃんは写真を撮られるのが嫌い。カメラを持ち歩いているので撮る方は好きなようだが、撮られるのはいつでも避けまくるのだ。

私としては、どんな服装をしているかの記録は残しておきたいが、別に強制ではないので、絶対写真を撮らないといけないわけではない。だがしかし。Aちゃん、いやAさんはもう社会人。高校卒業後は家を出て、専門学校を卒業し、アルバイトをして1人暮らしで生活していると聞いているが、よく考えたら履歴書とかの写真どうしてるん？

などと疑問はありつつ、「Aちゃん顔隠していいから」「～さん(スタッフ)と一緒にそこに立ってるだけでいいから」などあれやこれやと誘い掛け、他のスタッフと一緒に、何とか後ろ向きのAさんの姿を撮影成功。町家合宿では定番の風景で、Aさんが高校時代から学校でもよく見る風景である。



空中経路からの京都タワーと京都駅大階段

#### ☆A さんについて

A さんは、高校時代から、社会人になった今でもよく町家合宿に参加してくれている女の子である。私の知る限り、中学時代は不登校で市の適応指導教室で過ごし、私が週に 1 回勤務していたカースクール併設の単位制高校に進学してきた。ロングの黒髪で日本人形のような雰囲気ので可愛らしさがあり、物静かだが、考え方はしっかりしていて、控えめながらスタッフにも自分の意志をはっきりと伝えることができる。

高校では授業や人間関係など、なにかしらしんどくなると、よくスタッフルームに来て、スタッフと話をしていたので、私にもいろいろな話をしてくれたが、深い悩みや辛い気持ちもあまり表情を変えず（ほぼ年中マスクをしているのでそもそも表情はわかりにくい）淡々と語る様子が印象的であった。

人が多いところや、人と関わるのが苦手だとよく言っていたが、話してみると軽妙に趣味の話をしてくれたり、微笑みながらちょっと毒舌めいた冗談も言ってくれる。独特の感性で絵を描いたり、どこかポップでシュールな雑貨や服を身につけているので、スタッフからも周りの生徒からも好かれていたし慕われていた。自分を傷つけることはあっても、周りの人を傷つけるようなことは決してしない。学校ではそれほど会話をしているようには見えない子ともいつのまにか友だちになっていて、週末一緒にアイドルのコンサートに東京まで行っていたということもあった。

#### ☆参加しないけどそこにいること

そんな A 子さんは、写真を撮られる事をいつもとても嫌がる。いろいろ誘ってみると最近でこそ、集合写真などは何とか後ろ向きとか誰かの陰に隠れるようにはうつつくれる

が、正面からの写真は絶対と言っていいほど撮らせてくれない。

写真だけではない。町家合宿では昼食は大学の学食で食べることが多いが、学食が人で混み合っていたりすると、Aさんは「外で待ってる」と昼食は食べないことが多い。みんなと一緒に銭湯には行かず、町家の個室でシャワーを浴びる。Aさんにとっては、参加できない、あるいはすることによりかなり負担のかかることが町家合宿ではあるわけだが、それでもなぜAさんは町家合宿に何度も来てくれているのだろう。

高校時代もそうだった。Aさんは高校の授業や活動に参加できないことが時折あって、したくない、しんどいと思ったことはしなかったし、参加できないときには「いや」「むり」とスタッフに言っていた。それでも学校を休むことはあまりなかったのは、今にして思えば結構すごいことだと思う。授業や活動への参加を拒否するという勇気もすごいが、何より自分はその活動には参加しないけれど、その活動を行う学校という場所には、自分はいることができるということにAさんの懐の深さを感じる。不登校だったのに、学校というものを広い視野で受け入れているということだと思う。

そしてそれは、おそらく最初からではなく、Aさんが高校時代から少しずつできるようになってきたことである。

#### ☆卒業式の日のこと

Aさんの高校卒業の日を思い出す。Aさんは、たくさんの方がくる卒業式で、立派に卒業証書を受け取り、その後の記念の写真撮影はいつものように拒否していた。みんなが卒業式の部屋から、隣の謝恩会が行われる食堂に移動した後、Aさんは1人、卒業式の会場に残っていた。謝恩会は人が多いので入りづらかったのかもしれない。他の生徒たちとAさんを迎えに行くと、Aさんは1人部屋の隅で泣いていた。しゃくりあげながら身動きも取れないほど泣いていて、普段は淡々としているAさんがそんな風に感情を溢れるほどに表現していることが、3年前の私は想像だにしていなかった。迎えに行った他の生徒たちとともに、私も泣いた。

#### ☆そこにいられる関係性

町家合宿でも高校時代でも、Aさんが活動に参加しないことは、スタッフにとってはちょっと困ってしまうことである。できれば他の子と同じように参加してほしいしやらせたくなくなってしまう。だが、Aさんにとっては、それは不快なことで、耐えがたいことであり、そしてそれを、スタッフにちゃんと伝えてはくれるので、スタッフも、理由までははっきりとわからないけれど、Aさんが拒否をしたことは、Aさんにとってとても負荷のかかることなのだから、無理にはやらせないという関係性が少しずつできていた。

初めはスタッフとしか関わることのなかったAさんが、他の子たちとも関わるようになって、他の子と同じことができなくても、その場には安心して存在しているということ積み重ねた結果、Aさんはスタッフや周りの子を受け入れて、周りの子やスタッフは、参加

してもしなくても A さんを受け入れているという関係性が出来上がっていったのではないだろうか。

今では、A さんがネガティブな感情を表現することができて、かつそれを受け入れられる関係性があるから、A さんは学校に来ていたし、毎年遠路はるばる町家合宿に参加してくれているのかもしれないと思う。日々の仕事の中でも、A さんからのように拒否もしてもらえる、そんな関係性に値する援助者になれたらと思う。



観光中の A さん（左）、正面からの撮影初成功。やはりお顔は隠されていますが。